

改訂のポイント②

「当事者参画による設計・計画」の促進

改訂のポイント②「当事者参画による設計・計画」の促進

- 万博等で進展した「当事者参画による設計・計画」の普及を図るため、具体的な事例(体制やプロセス等)を府のガイドラインに追加し、国ガイドラインと併せて普及を促進

【改訂の考え方】

近年の「当事者参画」事例の蓄積

- 東京オリンピック・パラリンピック
 - 「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」
 - 新国立競技場の整備
 - 2025大阪・関西万博
 - 「施設整備ユニバーサルデザインガイドライン」
 - パビリオン(日本館、大阪ヘルスケア)の整備
 - 関西国際空港第1ターミナルビルリノベーション工事
 - バリアフリー検討会、見学会
- 等

国の動き

第4次バリアフリー整備目標(令和7年6月)

- 建築物における新たな目標設定

2030(令和12)年度末までの目標	2030年度末 数値目標
当該年度に着工した2,000㎡以上の国等の公共特別特定建築物の建築工事のうち、着工前の段階(基本構想～実施設計)で当事者参画を実施した工事の割合	原則100%

建築プロジェクトの当事者参画ガイドライン

の策定(令和7年5月)

- 当事者参画の基本原則、実施フロー、留意事項等の明確化

各事例における実施体制やプロセス、意見が反映された設計例等を集約・整理し、ガイドラインに追加

公共施設、民間施設で積極的な活用を促進

【参考】 建築プロジェクトの当事者参画ガイドライン（国土交通省/R7.5策定）

- **目的** 建築プロジェクトにおける当事者参画の自発的な実施を促進することを目的とする。
- **基本原則** ①**公平性**（多様な当事者の参画等）、②**透明性**（理由の明示等）、③**効果検証**（対応結果の整理・分析・共有等）
- **留意事項**

事業者等が留意すべき事項	当事者が留意すべき事項
①事前準備に関する留意事項 ・当事者参画の方法の検討、当事者参画の人選、当日に向けた資料作成・情報提供の準備等 ②当日に向けた資料作成・情報提供の準備 ・分かりやすい資料等で説明し、理解されているかを随時確認 ・情報提供における必要な配慮を確認して対応 ③会場・サポートの準備 ・エレベーター等での円滑な移動、バリアフリートイレの設置等 ・肢体不自由者、視覚障がい者等の移動支援のサポート ④当事者参画の場での留意事項 ・参加者個人が特定されないように適切に対処 ・当事者が答えやすいよう、聞きたい内容や前提条件を明確にする等の工夫など ⑤当事者参画の実施後の留意事項 ・実現の妥当性及び可能性を検討し、当該施設に可能な限り反映 ・整理された意見は、次の段階へ引き継がれるよう留意	①事前準備に関する留意事項 ・事前に資料や質問内容が示されているときは、資料等に目を通し、意見をまとめておく ・当日の資料や情報提供のされ方を事業者等に確認する ②当事者参画の場での留意事項 ・当事者としての意見なのか介助者等としての意見なのかを明確にする ・意見の背景・理由を伝える ・互いの理解を深めるために当事者間でも対話をするなど ③当事者参画の実施後の留意事項 ・意見を述べた完成施設をよく利用し、配慮された措置を試してみるにより、さらにより施設となるよう、機会を捉えて意見を述べる

● 各段階における実施内容

当事者参画の企画	基本構想・基本計画段階	基本設計段階	実施設計段階	施工段階	引き渡し	維持管理・運営段階
・当事者参画の計画づくり ・ファシリテーターへの依頼（任意）	・当事者参画参加への呼びかけ ・当事者参画検討～反映～結果報告 ・意見を踏まえた基本計画とりまとめ	・当事者参画検討～反映～結果報告 ・意見を踏まえた基本設計とりまとめ	・当事者参画検討～反映～結果報告・確認 ・意見を踏まえた実施設計とりまとめ	・当事者参画（モックアップ検証、現地確認、ヒアリング等） ・検討～反映～結果報告 ・意見反映結果の確認	・施設管理者・施設運営者への当事者参画の成果の周知 ・事前情報の提供	・当事者参画（現地確認、ヒアリング等） ・人的対応等の運営面での対応等

全国の当事者参画の取組事例

当事者参画の取組事例① 万博ユニバーサルデザインガイドライン

● ユニバーサルデザインワークショップ(UDWS)のスケジュールと検証の様子

2022				2023												2024	
9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
●	●	●	●		●				●								●
第1回移動／案内／誘導 第1回カムダウン／クールダウンスペース 第1回エレベーター／エスカレーター 第1回トイレ					第3回移動／案内／誘導				第3回客席 第4回移動／案内／誘導								第5回移動／案内／誘導
第2回客席 第2回エレベーター／エスカレーター 第2回カムダウン／クールダウンスペース																	
第2回移動／案内／誘導 第3回トイレ(モックアップ検証)																	

バリアフリートイレ
モックアップ検証

【出典】【第3回トイレに関する検討会】議事概要
<https://www.expo2025.or.jp/report/report-20230131-01/>



バリアフリートイレ モックアップ検証

【出典】【第3回トイレに関する検討会】議事概要
<https://www.expo2025.or.jp/report/report-20230131-01/>



当事者参画の取組事例① 万博ユニバーサルデザインガイドライン

POINT



すべての来場者にとって、より利用しやすい博覧会会場を実現するため、障がい当事者や学識経験者等を意見を伺う検討会を開催するとともに、Tokyo2020アクセシビリティガイドライン等昨今の事例を参考に、議論や知見を反映し、ユニバーサルデザインガイドラインの改定を行った。

● 客席

項目	客席に関する検討会
参加メンバー	学識経験者・聴覚障がい者・身体障がい者・各障がい者支援団体 計10人
実施方法・開催数	ワークショップ形式 全3回
概略	■ 座面高さ、車いす席への動線の検討、通路やスロープに人を立ち止まらせないための人的対応等の検討 ■ 平土間部分の車いす席への配慮、国際シンボルマークのの表示、誰が見ても車いす使用者のスペースと分かるようにするなどの検討 ■ サイトライン、車いす席の分散配置、ヒアリンググループの導入、階段段鼻の輝度比

● エレベーター/エスカレーター

項目	エレベーター／エスカレーターに関する検討会
参加メンバー	学識経験者・視覚障がい者・聴覚障がい者・身体障がい者・各障がい者支援団体 計11人
実施方法・開催数	ワークショップ形式 全2回
概略	■ エレベーターの仕様、円滑な垂直移動の確保のための設置方針、ボタンの操作性等について検討 ■ エスカレーターの速度や手すり部分の証明、逆侵入防止等、安全対策について検討 ■ 緊急時に備えた対策の検討 ■ 大屋根リングのエレベーターを1箇所追加設置

当事者参画の取組事例① 万博ユニバーサルデザインガイドライン

● トイレ

項目	トイレに関する検討会
参加メンバー	学識経験者・視覚障がい者・身体障がい者・各障がい者支援団体 計11人
実施方法・開催数	ワークショップ形式 全3回
概略	■ 主要動線からの誘導方法についての具体的検討 ■ トイレ前の触知案内板は中のレイアウトが分かるように ■ 省スペースのトイレ内の誘導方法 ■ 機能分散の有効活用を考えた、扉へのサイン表示、床へのサイン設置 ■ 床材を変えた注意喚起、ベンチの設置箇所等 ■ バリアフリートイレの出入りに大型ベッドが干渉しないレイアウト ■ 大便器の男女比をスフィア基準(1:3)同等に設定、男性用大小便器比は日本サッカー協会スタジアムの基準を参考に概ね1:2

● カームダウン/クールダウンスペース

項目	カームダウン/クールダウンスペースに関する検討会
参加メンバー	学識経験者・身体障がい者・精神障がい者・各障がい者支援団体 計10人
実施方法・開催数	ワークショップ形式 全2回
概略	■ 8箇所の休憩施設については全て個室タイプかつ会場内分散配置、また一部車いすで利用可能な広さを確保 ■ カームダウン・クールダウンスペースと授乳室・おむつ交換室は離して配置 ■ 内装の色は場所によって選択できるよう検討 ■ 外部デザインは分かり易いピクトグラム表示 ■ ガイドラインに基づく調光

当事者参画の取組事例① 万博ユニバーサルデザインガイドライン

● 移動/案内/誘導

項目	移動／案内／誘導に関する検討会
参加メンバー	学識経験者・視覚障がい者・身体障がい者・精神障がい者・各障がい者支援団体 計14人
実施方法・開催数	ワークショップ形式 全5回
概略	■ サインが設置される足元に植栽帯を設けないことや屋外のサインの見つけやすさ ■ ひらがな表記は、行動起点となる広場名称に対して併記 ■ コントラストにも配慮したカラープラン ■ 必要な情報、視認距離、文字サイズを確保しつつ大きくなり過ぎず調整、遠方からでもよりサインを認識しやすいデザイン ■ 施設誘導サインに距離表記 ■ 暴露試験を実施し、色あせに配慮

当事者参画の取組事例② 大阪ヘルスケアパビリオン

ユニバーサルデザインワークショップ(UDWS)のスケジュールと検証の様子

2022												2023												2024												2025																																																																																									
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																																																									
● 【当事者ヒアリング】 移動①～③ トイレ①～③ カームダウン・クールダウン①②												● ヒアリング意見とりまとめ報告												● みんなでトイレ作成チャレンジ												● トイレとカームダウン・クールダウンルーム プランの確認など												● 展示計画などの説明と意見ヒアリング カームダウン・クールダウンルームの設 備等の確認												● 展示計画などの説明と意見ヒアリング												● みんなトイレの原寸床表示での 案内誘導サインほかの確認												● ポッドやライドのモックアップ検証等												● 視覚障がい者個別ヒアリング												● ホームページでの事前情報提供												● アテンド研修の進め方 ナビレンスの確認（現地）			● アテンド研修（座学） アテンド研修（現地） ナビレンスの確認（現地）		

WS、モックアップ検証の様子



みんなでトイレ作成チャレンジ(ワークショップ)の様子

【出典】大阪ヘルスケアパビリオンHP
https://2025osaka-pavilion.jp/img/universal-design/initiative/initiative_02.pdf



ポッドやライドのモックアップ検証:
ミライのライド確認の様子

【出典】大阪ヘルスケアパビリオンHP
https://2025osaka-pavilion.jp/img/universal-design/initiative/initiative_07.pdf



ワークショップ(カームダウン・
クールダウンルーム):扉の位置
や大きさを確認している様子

【出典】大阪ヘルスケアパビリオンHP
https://2025osaka-pavilion.jp/img/universal-design/initiative/initiative_05.pdf

当事者参画の取組事例② 大阪ヘルスケアパビリオン

項目	
参加メンバー	学識経験者・身体障がい者・視覚障がい者・聴覚障がい者・精神障がい者・知的障がい者、発達障がい者、LGBTQ、医療ケア児、子育て世帯、支援団体 計22人 作り手企業、展示・建築の設計施工受託者 計6社
実施方法・開催数	当事者ヒアリング:5回 ワークショップ形式、モックアップ等:19回(モックアップ3回、現地確認3回) 全24回
概略	【トイレ】 ・パビリオン内のトイレについて、『誰もが使いやすい、ミライのトイレ』を目指し、トイレプランを福笑い形式で作成する等、意見交換を実施。誰もが分け隔てなく使えて、使いやすい「トイレ」とし、どうしても男女別でないと抵抗が大きい人のための男女各専用スペースや、多様なニーズに対応するためのファミリーコーナーやスタイリングコーナーなどを追加 ・トイレの案内誘導サインや使い勝手の原寸大で検証(原寸床表示) ・みんなトイレのサインやコンセプトボード、触知図のイメージと、表示するピクトサインの種類や位置、トイレの空き情報案内について検討 【館内の移動】 ・来館者がみんな同じルートで展示を体験でき、より高い安全性の確保できるよう「カート型」から「リフト型」に変更 ・避難誘導の設備として非常放送や光警報装置、緊急情報表示システムを設置。点滅機能および音声誘導機能を持った避難口誘導灯を設置。また外部階段の一時待避スペースに、防災センターと会話ができるモニター付きインターホンを設置 【カームダウン・クールダウン】 ・室内の設備や内装などの詳細を検討 ・部屋の原寸大図を床に描いて、扉の位置や大きさ、仕上げ材料等を検討 ・内装材の色やスイッチなどをサンプルを元に検討、内装の仕上は落ち着いた色、スイッチは車いすでも操作しやすい高さ 1100mmに決定 ・1 階のみ横になれるスペースを確保 ・呼び出しボタンに加えて、警備室と通話ができるようインターフォンを設置 【展示】 ・展示イメージのヒアリングや、展示体験の原寸大で壁の映像の高さや見やすさ、サインの文字の見やすさや高さなどを検討 ・ナビレンス(視覚障がい者向けアプリ)コードの設置位置と音声内容の現地確認 【広報・運営】 ・情報を見つけやすいホームページとするためユニバーサルデザイン情報やユニバーサルデザインマップ、センサリーマップについて検討 ・当事者から学ぶ座学研修と現地研修を実施 【全体】 ・設計段階から運営まで、最初から最後まで当事者参画で検討を進めた。

当事者参画の取組事例② 大阪ヘルスケアパビリオン

● 事例:みんなトイレ

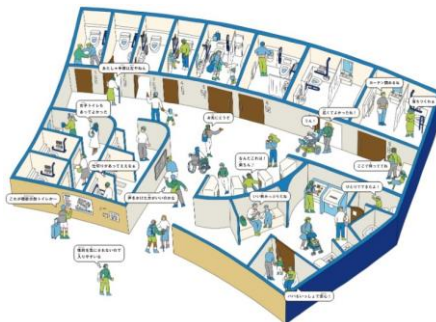
POINT



- ・ パビリオンの企画・設計段階から運営までの取組過程自体がユニバーサルデザインという共通認識のもと当事者と一体となり、みんなで一緒にミライのユニバーサルデザインのあり方について検討した。
- ・ 「誰もが使いやすい、ミライのトイレ」をテーマにコンセプトに沿って、トイレプランを福笑い方式(みんなでトイレプラン作成チャレンジ)で作成し、発表した。

みんなでトイレプラン作成チャレンジ

みんなが自由に選んで自然に使えるトイレをめざして、トイレの困りごとを伝えあい、プランを一緒に作り、使いやすさを確かめ完成しました。会期中も利用者の声を聞き、思いをつなげていきます。



【提供】大阪ヘルスケアパビリオン

トイレに関する主な検討の流れ

当事者ヒアリング①:平面計画(機能分散)

当事者ヒアリング②:移動・トイレの内容

当事者ヒアリング③:トイレの内容

みんなでトイレプラン作成チャレンジ

トイレプラン案の説明と意見ヒアリング

トイレプランの確認等

トイレ案内誘導WS

みんなトイレの原寸床表示での案内誘導サインほかの確認

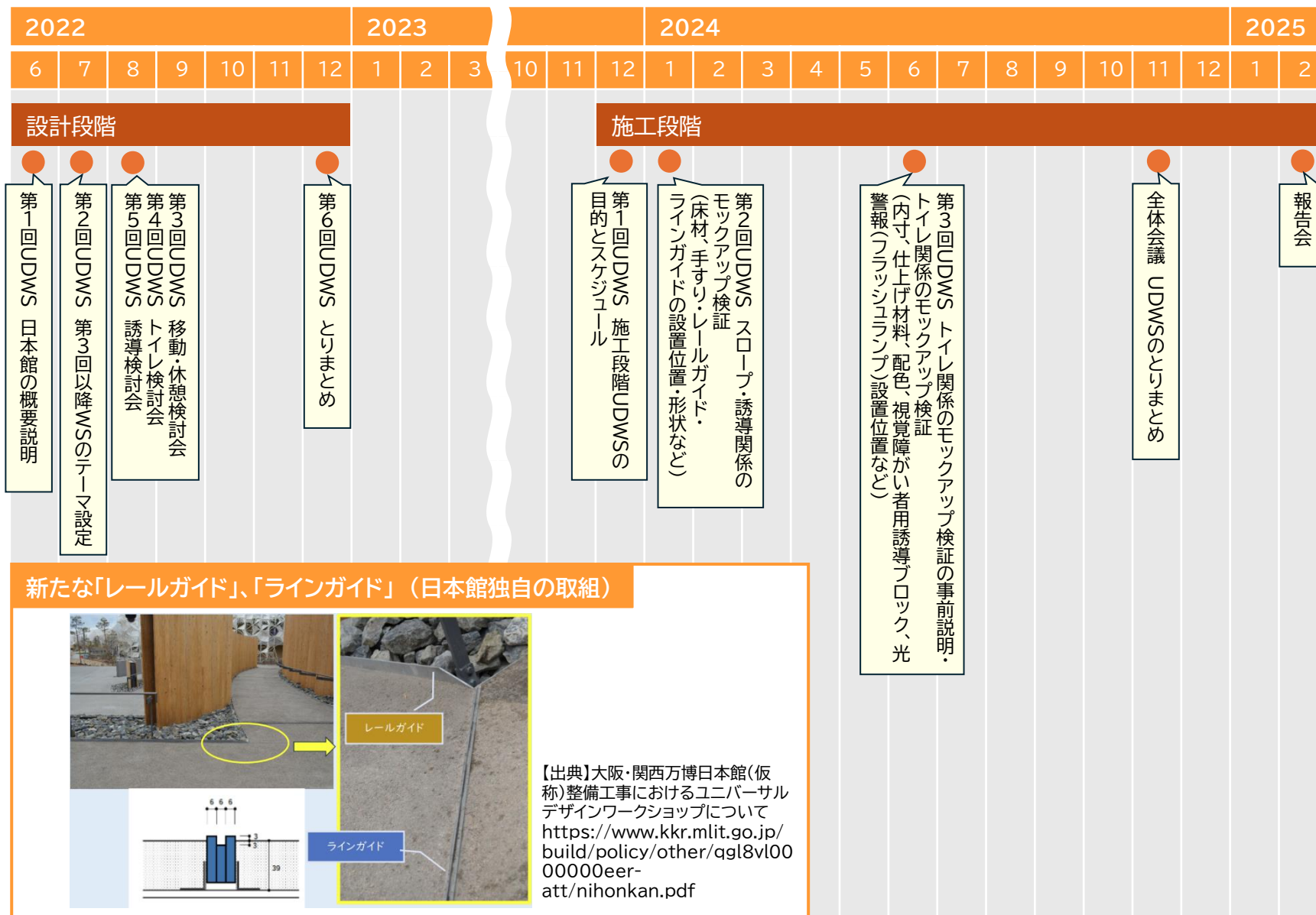
トイレのサイン・並び方

みんなトイレのサイネージの表示

【参考】大阪ヘルスケアパビリオン提供資料より編集

当事者参画の取組事例③ 日本館

● ユニバーサルデザインワークショップ(UDWS)のスケジュールと新たな誘導機能の様子



当事者参画の取組事例③ 日本館

項目	
参加メンバー	設計段階：学識経験者7名 障がい当事者25名 計32名 施工段階：学識経験者3名 障がい当事者22名 計25名 （身体障がい者、視覚障がい者、聴覚障がい者、精神障がい者、LGBTQ、各支援団体等）
実施方法・開催数	設計段階：ワークショップ形式 6回 施工段階：ワークショップ形式 3回、モックアップ 2回、取りまとめ・報告会含む 6回 全11回
概略	【スロープ、手すり】 ・スロープ・踊場の床材の材質や色について三和土の表面を滑らかにし、勾配に変化が付くスロープの上下端に濃い色の三和土をライン状に入れることで視認できるようにするなど改善 ・手すりは夏場の暑さ対策も考慮しフィルムシート貼りとし、手すりは、握りやすさ、使いやすさを考慮 ・円形回廊の手すりについては、身体を支える役目のほかに、レールガイド、ラインガイド（後述）と併せて視覚障がい者の誘導のための役割をもっており、回廊内に連続して敷設 【レールガイド・ラインガイド】 ・日本館の円形回廊では、視覚障がい者が一人でも移動が可能な移動空間をめざして、誘導ブロックに代わる誘導機能持たせた、新たな「レールガイド」「ラインガイド」を設置 ・「レールガイド」は、円形回廊にそった手すりの下部に、高さ5cmの金属の板を設置し、視覚障がい者が白杖を添わせて移動方向を確認できるものとして設置 ・「ラインガイド」は、レールガイドが途切れる通路の渡りの部分などに高さ3mmの金属の突起を2列で敷設し、連続性を確保。ラインの隙間に白杖を当てるようにして誘導 【視覚障がい者用誘導ブロック】 ・敷設範囲の色は黄色で統一 ・誘導は箇所により線状・点状ブロック、係員、手すり・レールガイド・ラインガイドと設定 ・避難階段、トイレの触知図案内板の床に点状ブロックを敷設 ・スロープについて意見にもとづき、点状ブロックは設置せず弱視者などのためにスロープの端の色を変えることで、視認を高めるよう改善 【授乳室】 ・ベビーベッドの直上の照明は光が直接目に入らない位置に調整

項目	
概略	【トイレ】 ・『できる限り多くの人が利用しやすいトイレ』を目指してタイプの違うトイレを用意し、全体として多様な人が使いやすいバランスで配置し、日本館周辺エリアのトイレが受け持つ機能も考慮したタイプを計画 ・車いす対応便房に姿見を設置(計5箇所) ・バリアフリートイレの大型ベッドは車いす利用者が操作しやすい跳ね上げ式に変更、洗面台の手すりの間の幅を550mmに変更し、肘を支持できるように改善し、実際にモックアップで550mmが問題なく使いやすいことを確認 ・壁付リモコン類と壁は同系色をやめ、リモコン背景を3種類で整理を行いリモコンの認識がしやすいように改善 ・個室型男女共用便房の手洗いカウンターの形状を台形から丸みのある三角形に変更、他の設備も調整し、トイレブース内の使い勝手を改善 ・呼出ボタンは日本館周辺施設と種類や配置を統一 ・フック位置は出入口扉のブース内側に統一して設置し安全に配慮した形状とした ・扉の仕様は全開時ストッパーを整備、軽い力(UDガイドラインの30N以下)で開閉可能とし、バリアフリートイレの内部側に補助手すりを設置 ・通路は幅がある程度広く、T字路部に誘導スタッフを配置するため鏡の設置は無しとした 【カームダウン・クールダウン】 ・内装の仕様は柔らかいクッション材を採用。色はウォーム系の薄いグレーとした ・照明は部屋の利用者が調光可能な照明を設置 【その他】 ・床面点字に関してはトイレの広さや、色彩計画でコントラストをつけているため、ある程度認識できると思われるという意見から設置はしない ・フラッシュランプ点灯の説明文を掲示 ・トイレブースと通路、カームダウンクールダウンルーム、授乳室にフラッシュランプを設置 ・非常時にはスタッフによる避難誘導がなされるため、文字情報による表示は行わない

当事者参画の取組事例③ 日本館

● 事例:スロープ、誘導関係

POINT

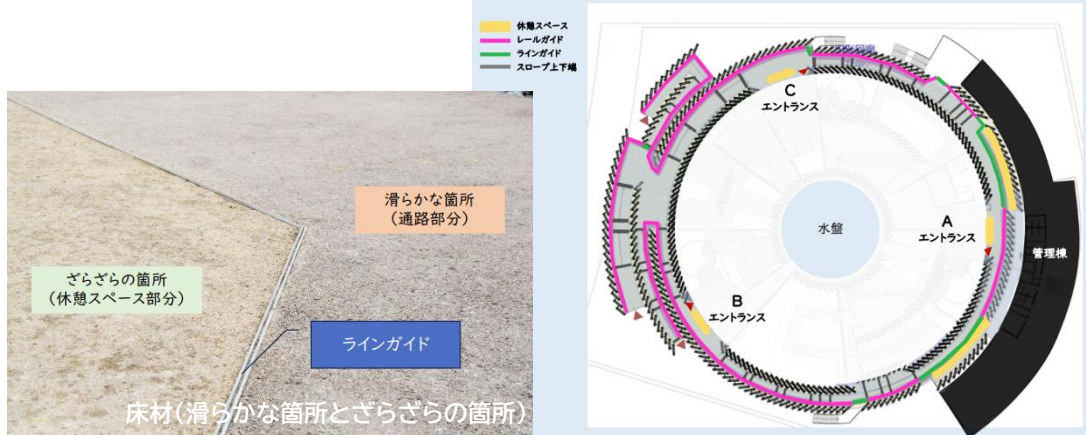


- ・基本設計から施工まできめ細やかに当事者とワークショップを実施し。様々な障がい者等から意見を聴収し、それを設計・施工に反映した。
- ・誰もが一緒に移動し、同じ空間を楽しめるよう、会場全体を緩やかなスロープで連続的につなぐ設計を採用した。
- ・来館者が円形の回廊を入口から一方向で移動し、進行方向へ一筆書きの歩行ルートにそって、視覚障がい者誘導ブロックに代わる、視覚障がい者の誘導機能を持たせた新たな「レールガイド」と「ラインガイド」設置を試みた。

● UDWSの意見等に基づく施工内容

施設・設備等	ご意見	施工内容（UDへの配慮事項）
勾配	・5%で通行に問題はない(参加者共通意見)	・スロープの勾配は設計当初から5%を前提として、多様な人が同じように使いやすくしている
床材	・三和土のざらつきは足が不自由な人、高齢者等にとって、つまづきやすくなる	・床材は自然性が高く、リサイクルしやすい三和土を採用している。三和土の表面を滑らかにし、車いす、高齢者、片麻痺の人などがつまづかないようにする
床の色	・スロープと踊り場の微妙な色の違いや表面仕上げの違い(なめらか・ざらざら)は分かりにくい	・設計段階は5%勾配のスロープと踊り場を三和土の表面仕上げで区別するよう計画していた(点状ブロックの敷設は不要と確認していた)。 ・施工段階の検証の結果、表面仕上げの違いではなく、スロープの上下端に濃い色の三和土をライン状に入れることで視認できるようにする。

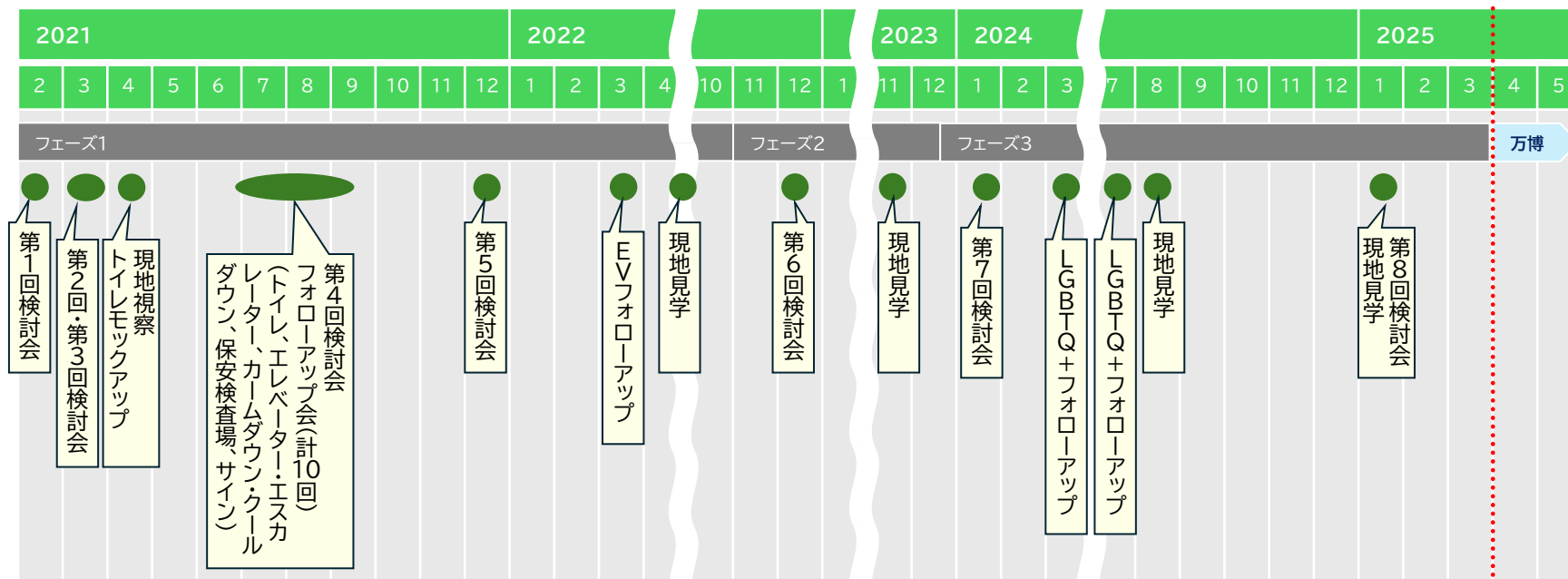
ワークショップを実施する際には、特に視覚障がい者にどうやって理解してもらうかという点において、**立体模型や立体コピー図を作成し、実際に模型を触ってもらいながら構造等について理解していただいた。**



床面の色、レールガイド、ラインガイドの設置位置

当事者参画の取組事例④ 関西国際空港

● 検討会のスケジュールと検証の様子



検討会、フォローアップ会の様子



検討会(対面&WEB)の様子

【出典】第3回移動等円滑化評価会議 近畿分科会
<https://www.tb.mlit.go.jp/kinki/content/000272408.pdf>



EVフォローアップの様子①

【出典】第4回 移動等円滑化評価会議 近畿分科会
<https://www.tb.mlit.go.jp/kinki/content/000323980.pdf>



EVフォローアップの様子②

視覚障害者による袖確認等

当事者参画の取組事例④ 関西国際空港

項目	
参加メンバー	学識経験者・身体障がい者・視覚障がい者・聴覚障がい者・精神障がい者・各障がい者支援団体・子育て支援団体・施設管理者等・地方公共団体 計31人
実施方法・開催数	検討会 計8回 現地見学会 全5回 フォローアップ会(EVフォローアップ検証・トイレモックアップ含む) 全14回
概略	【一般トイレ】 ■ 機能分散→近隣に授乳室がある場合は、ベビーシート設置取りやめ車いす優先トイレを設置 ■ 一般トイレに車いすで利用可能な個室の設置→奥行寸法を、1900～2000mmに広げる。(新設トイレ22カ所のうち11カ所) ■ 車いす対応の洗面台設置→足元スペースの確保、洗面鏡高さ変更 ■ 個室ブースの工夫→折れ戸の表裏の色を変えて、使用中か一目で分かるようにする。フラッシュライトの設置 ■ トイレ入口に音声案内の設置 ■ トイレ入り口のピクトグラムの変更 【多機能トイレ】 ■ レイアウト→男女共用できる位置に設置(異性介助者等への対応のため) ■ 緊急呼び出しボタン→便座に座っている状態、転倒時に対応できる位置に設置 ■ 開閉スイッチ→押しやすい位置に変更 ■ 荷物掛けフック→利用しやすい高さに変更 【階段】 ■ 2段手すりの設置 【カームダウン・クールダウン】 ■ 出国手続き後のエリアに4カ所設置(国内線保安検査場の前後2カ所など) 【エレベーター】 ■ かごサイズの見直し。検証で4台同乗が可能と判明、カゴのサイズの大型化・出入り口幅の拡幅、並びに片袖化にする効果は大きい ■ 緊急時に文字通話ができる2次元バーコードを整備

当事者参画の取組事例④ 関西国際空港

● 事例:エレベーター緊急通報システム

POINT



- ・ 対話しやすい環境づくりを心がけ、それぞれの課題に対して、当事者間での意見交換を含め、話しやすい場をつくる工夫を行ったことで、課題の本質を追求し、本当に必要なものは何かを導き出した。
(全体会議だけでなく、小規模でのフォローアップ会議の開催)
- ・ 対面とWEBを併用したことで、より多くの方に検討会やフォローアップ会に参加していただいた。

エレベーター緊急通報システムの設置までの主な検討の流れ(意見への対応が難しい中、代替案を検討した事例)

1

EVに緊急時の音声通話装置だけでなく、緊急時対応のモニターがほしい

2

- ・ 全EVに設置すると多額のコストがかかってしまう…
- ・ 過去実績からEV内閉じ込めが発生する頻度は年1回程度

3

モニターがあることが重要ではなく、緊急時に聴覚障がい者が使用できる連絡手段が必要

意見交換会を重ね、
課題の本質を追求

4

緊急時にチャットで連絡できるシステムを構築

【参考】関西国際空港 提供資料より作成



【出典】関西国際空港ホームページ
<https://www.kansai-airport.or.jp/service/bf/08.html>